

日本史 外交史（中国との関係） 確認問題集

全19問 / 解答・解説は後半

名前 _____

記事「日本史 外交史（中国）まとめ | 遣隋使から日中国交正常化まで」を読んだあとに解く問題集です。答えを書いてから後半の解答・解説で確かめ、間違えた問題は解説にある記事の節を読み直してください。

第1部 一問一答

問いに当てはまる語句を答えなさい。

1 中国の皇帝が周辺の国の王に称号や印を与えて臣下とし、その地位を認めることを何というか。

2 107年に後漢に使者を送り、生口160人を献上した倭国王は誰か。

3 478年に倭王武が宋へ送った上表文を収めた中国の史書は何か。

4 608年に隋の使者として日本に来た人物は誰か。

5 遣唐使とともに留学生として唐に渡り、帰国後は玄昉とともに橘諸兄の政権で活躍した人物は誰か。

6 文永の役のと、鎌倉幕府が九州の御家人に課した沿岸警備の軍役を何というか。

7 1325年に建長寺を建て直す費用を得るため、鎌倉幕府が元へ送った貿易船を何というか。

8 1401年に足利義満が明へ送った使者で、正使を務めたのは誰か。

9 江戸時代の1689年に長崎郊外に設けられ、来航した中国人の住む場所を限った施設は何か。

10 1915年、第2次大隈重信内閣が袁世凱の政府に出し、山東省のドイツ権益の継承などを求めた要求を何というか。

第2部 正誤問題

次の文ア～エのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

11 古代の中国との関係について。

- ア 57年に奴国の王が後漢に使者を送ったことが、『後漢書』東夷伝に記されている。
- イ 卑弥呼は魏から「親魏倭王」の称号と金印を与えられた。
- ウ 600年の遣隋使は、『日本書紀』にくわしく記されている。
- エ 607年に小野妹子が届けた国書は、隋と対等な形式で書かれていた。

12 遣唐使について。

- ア 最初の遣唐使は、630年に派遣された犬上御田鍬である。
- イ はじめは朝鮮半島の西岸にそって進む北路がとられた。
- ウ 新羅との関係が緊張すると、東シナ海を横断する南路に変わった。
- エ 894年、唐が滅亡したため遣唐使は廃止された。

13 中世の日中間の貿易について。

- ア 日宋貿易は、宋との正式な国交のもとで行われた。
- イ 平清盛は、摂津の大輪田泊を修築した。
- ウ 日明貿易では、勘合によって正式な船であることを確かめた。
- エ 寧波の乱のあと、大内氏が日明貿易を独占した。

14 近代以降の日中関係について。

- ア 日清修好条規は、互いに領事裁判権を認め合う対等な条約だった。
- イ 三国干渉によって、日本は台湾を清に返還した。
- ウ 満州国は、日満議定書によって日本が承認した。
- エ 1972年の日中共同声明で、中国は日本への戦争賠償の請求を放棄した。

第3部 年代の並べ替え

次のア～エを、古いものから年代順に並べなさい。

15 古代の中国との交渉を年代順に並べなさい。

- ア 倭王武が宋に上表文を送った。
- イ 卑弥呼が魏に使者を送った。
- ウ 犬上御田鍬が最初の遣唐使として派遣された。
- エ 奴国の王が後漢に使者を送った。

16 中世から近世の出来事を年代順に並べなさい。

ア 海舶互市新例が出された。

イ 弘安の役が起こった。

ウ 寧波の乱が起こった。

エ 勘合貿易が始まった。

17 近代の出来事を年代順に並べなさい。

ア 国際連盟からの脱退を通告した。

イ 盧溝橋事件が起こった。

ウ 柳条湖事件が起こった。

エ 日満議定書が結ばれた。

第4部 論述問題

次の問いに答えなさい。字数は目安です。

18 遣唐使が派遣された目的と、894年に派遣が中止された背景を、航路の変化にもふれながら150字程度で説明しなさい。

19 室町時代の日明貿易（勘合貿易）の形式と、日本側にとっての利点を120字程度で説明しなさい。

日本史 外交史（中国との関係） 確認問題集 解答・解説

第1部 一問一答

1 冊封

冊封を受けた王は使者に貢ぎ物を持たせて送り（朝貢）、皇帝は返礼の品を与えました。卑弥呼や倭の五王、足利義満が冊封を受けた例です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／弥生～古墳時代

2 帥升

『後漢書』に記録があります。57年の奴国の遣使とあわせて、後漢との交渉として押さえます。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／弥生～古墳時代

3 『宋書』倭国伝

倭の五王の記録は『宋書』倭国伝にあります。卑弥呼の『魏志』倭人伝、奴国の『後漢書』東夷伝と取りちがえないようにしましょう。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／弥生～古墳時代

4 裴世清

前年の607年に小野妹子が届けた国書に煬帝は不快を示しましたが、隋は裴世清を日本に送りました。妹子はその帰国に同行して再び隋へ渡りました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／飛鳥時代

5 吉備真備

同じ遣唐使とともに渡った阿倍仲麻呂は、唐の朝廷で重く用いられ、帰国できないまま唐で亡くなりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／奈良・平安時代

6 異国警固番役

あわせて博多湾の沿岸に石築地（防塁）を築かせ、1281年の弘安の役では元軍の上陸をはばみました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／平安末～鎌倉時代

7 建長寺船

元寇のあとも民間の交易は続きました。1342年には室町幕府が天龍寺船を送っています。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／平安末～鎌倉時代

8 祖阿

副使は、義満に明との通交をすすめた博多商人の肥富でした。1404年から勘合を用いた貿易が始まります。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／室町・戦国時代

9 唐人屋敷

密貿易やキリスト教の広まりを防ぐためでした。それまで中国人は長崎の町に住むことができませんでした。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代

10 二十一カ条の要求

最後通牒によって受け入れさせたため中国では反日の感情が高まり、1919年の五・四運動につながりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／大正～昭和戦前

第2部 正誤問題

11 ウ

600年の遣隋使は『隋書』倭国伝に記されていますが、『日本書紀』には記録がありません。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／飛鳥時代、入試で狙われるポイント

12 エ

894年は菅原道真の建議による派遣の中止です。唐が滅びたのはその後の907年です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／奈良・平安時代

13 ア

日本は宋と正式な国交を結ばず、宋の商人が来航して取引が行われました。朝貢の形式をとったのは日明貿易です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／平安末～鎌倉時代、比べて覚える

14 イ

三国干渉でロシア・ドイツ・フランスが返還を求めたのは遼東半島です。台湾と澎湖諸島は下関条約どおり日本にゆずられました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／明治時代、入試で狙われるポイント

第3部 年代の並べ替え

15 エ→イ→ア→ウ

奴国の遣使（57年）→卑弥呼の遣使（239年）→倭王武の上表文（478年）→最初の遣唐使（630年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

16 イ→エ→ウ→ア

弘安の役（1281年）→勘合貿易の開始（1404年）→寧波の乱（1523年）→海舶互市新例（1715年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

17 ウ→エ→ア→イ

柳条湖事件（1931年）→日満議定書（1932年）→国際連盟脱退の通告（1933年）→盧溝橋事件（1937年）の順です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／大正～昭和戦前（図解4）

第4部 論述問題

- 18 解答例：**遣唐使は、唐の進んだ制度や文化を取り入れるために派遣され、留学生や学問僧が同行した。はじめは朝鮮半島の西岸にそう北路を通ったが、8世紀に新羅との関係が緊張すると、東シナ海を横断する危険な南路をとるようになった。894年、遣唐大使の菅原道真は、唐の衰えと航海の危険を理由に派遣の中止を建議した。

採点のポイント：①目的（唐の制度・文化の輸入）、②北路から南路への変化とその理由（新羅との関係の緊張）、③中止の理由（唐の衰え・航海の危険）と菅原道真、の3点が入っているか。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／奈良・平安時代、論述で使える要点

- 19 解答例：**足利義満は明の皇帝から日本国王に封じられ、朝貢の形式で貿易を行った。明が発行した勘合を持参して正式な船であることを示し、倭寇と区別した。皇帝からの返礼の品に加えて商人の取引も認められたため、銅銭や生糸などを入手でき、利益は大きかった。

採点のポイント：①日本国王としての冊封と朝貢の形式、②勘合の役割（正式な船の証明・倭寇との区別）、③利益（返礼と商人の取引、銅銭・生糸などの輸入）、の3点が入っているか。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／室町・戦国時代、論述で使える要点

記事：日本史 外交史（中国）まとめ | 遣隋使から日中国交正常化まで <https://lawcityblog.com/nihonshi-theme-gaiko-china/>
問題・解説は文系ラボのオリジナルです。無断転載を禁じます。